



学芸員のススメ



触ってみよう！昔の紙 —下張り文書の話—

谷川 朋史

昔の人は書き損じた紙や効力を失った証文など、用が済んだ紙のことを「反故紙」と呼んでいました。手すきの和紙は、洋紙と比べて比較的貴重だったため、反故紙は「すき返し紙」という再生紙の材料や「下張り」という襖ふすまやびょうぶの補強など、生活のあらゆる場面で利用されました。古い襖の破れ目から大量の古文書が見つかることがあるのはこのためです。

博物館では4月から基本展示室の触察展示コーナーで、旧家



こどもの手習いに使用したと
思われる反故紙

の襖に張られていた反故紙を展示し、実物に触れることができます。中には、メモやこどもの字の練習に使われたものもあり、どれも個性豊かで見ていて飽きません。当時の生活が少しだけのぞける反故紙の世界をお楽しみください。



博物館HPはこちら